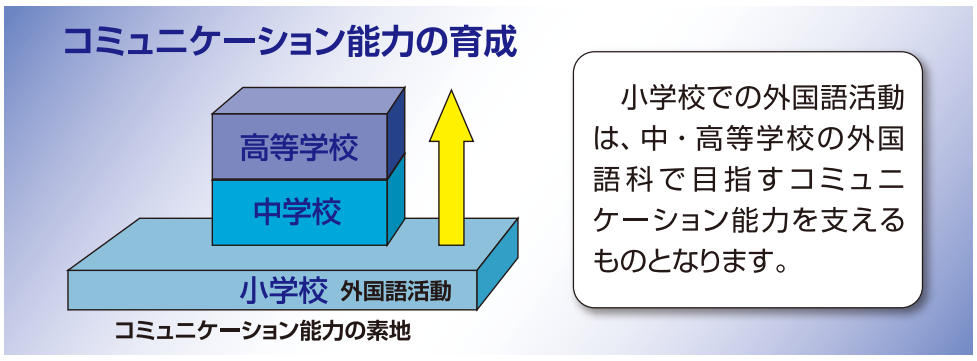
小学校における外国語活動

新学習指導要領により、今年度から小学校5・6年生で外国語活動が全面実施されています。

外国語活動は、音声を中心に外国語に慣れ親しむ活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標としています。



小学校での外国語活動は、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるものとなります。

英語ノート（補助教材）
文部科学省配布

教材作りに取り組む小学校の先生

ALTとの授業

出身国であるカナダを楽しく紹介

※ALTとは外国語指導助手(Assistant Language Teacher)で、学校における外国語授業の補助を行う。

外国語を使った活動

友達とのインタビュー活動の様子。コミュニケーションの楽しさを体験します。

国名当てクイズに挑戦。外国語を通じて、言語や文化について理解を深めます。

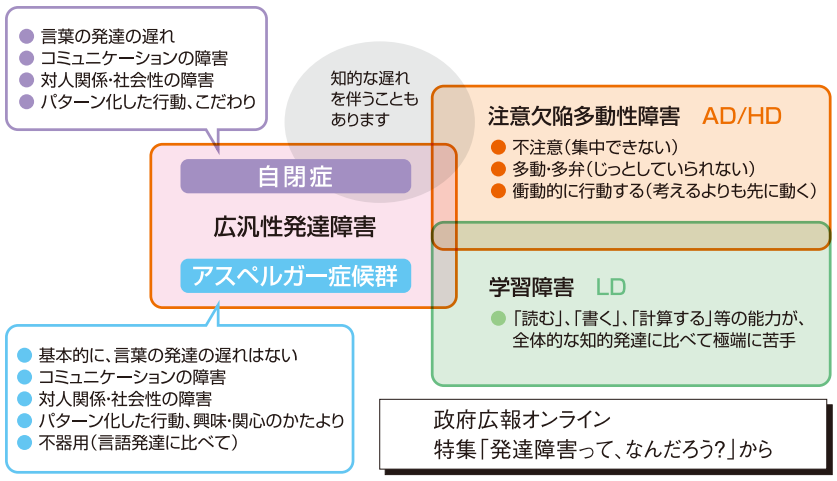
発達障害のある子どもへの支援

発達障害について

発達障害は、広汎性発達障害（自閉症など）、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（AD/HD）など、脳機能に関係する障害です。発達障害のある子どもは、程度に差はありますが、生活や学習上の困難さがあります（右図）。また、誤解を受けやすいために、自信・意欲が下がり不登校等につながる場合もあります。しかし、発達障害についての正しい理解と適切な支援がある場合には、友達と一緒に生活や学習ができ、持っている力を発揮することができています。

学校では、発達障害のある子ども一人一人の課題を把握し支援しながら、その子のよさをより一層伸ばす教育を目指しています。そのために、身近にいる教職員がよき理解者となり、どの子も安心して生活できる学級環境づくりと一人一人の特性に配慮した授業づくり、学校全体での支援体制づくりを進めています。

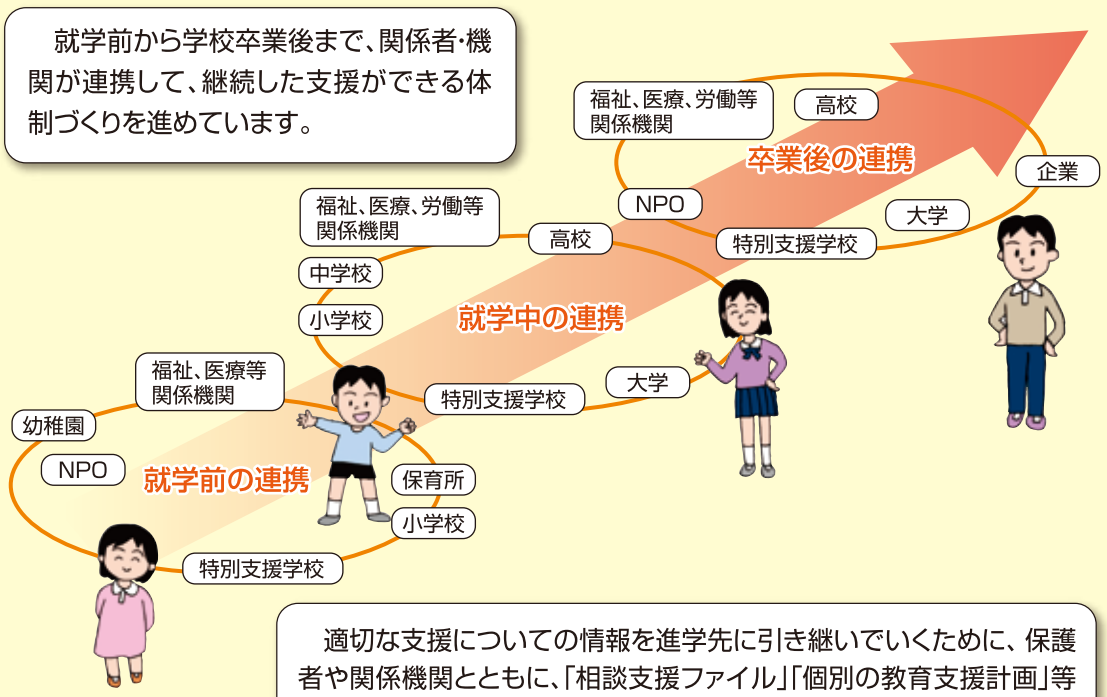
周囲の人が発達障害についてさらに理解を深めるとともに、保護者、学校、関係機関等が子どもを中心として連携を図り、将来の自立と社会参加に向けた支援を行うことが大切です。



政府広報オンライン
特集「発達障害って、なんだろう?」から

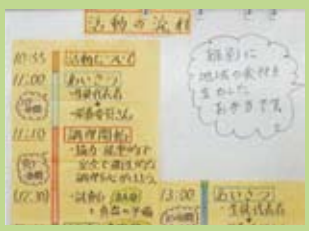
将来を考えた連携

就学前から学校卒業後まで、関係者・機関が連携して、継続した支援ができる体制づくりを進めています。



適切な支援についての情報を進学先に引き継いでいくために、保護者や関係機関とともに、「相談支援ファイル」「個別の教育支援計画」等を作成する取組を進めています。さらに、就労先等への円滑な移行のための支援へと引き継いでいきます。

学校における支援の例



活動の流れや作業の時間を示すことで、見通しをもつことができ、学習に意欲的に取り組みやすくなります。

周囲の音が気になる子どもには、机と椅子の脚にテニスボールをはめて音が出にくくし、学習に集中しやすい静かな環境づくりをしています。

＜支援を考えるときに＞

発達障害のある子どもへの支援を取り入れた授業を行うことで、クラスの子どもたちにとっても学びやすい授業になります。

（特別支援教育に関する資料や情報は、岡山県教育庁特別支援教育課のホームページでご覧いただけます。）